

組織と運動の立て直しを意思統一



支部・分会代表者会議 震災で確認した団結力で



No. 2605
2011年6月5日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

地方本部は5月15日、こころ会館において、支部・分会代表者会議を開催した。この会議は、「東日本大震災」による地方本部内各級機関組織の受けた被害・影響は甚大であるとの認識から、全機関がその確認と情勢、現状把握、運動の立て直しの意思統一を図る会議と位置付け開催したもの。

会議の冒頭、震災で亡くなられた全ての方に対して黙祷が捧げられ、中島副委員長長の挨拶で会議が開会。

主催者を代表し、橋本委員長は以下の挨拶を述べた。
「国労でよかった」の声
被災された皆さんに心からお見舞いと、組合員と家族の安全確認、支援と復旧・復興に全力で立ち向かい、本日結集した皆さんに心から敬意と感謝。

「国労でよかった」の声

被災された皆さんに心からお見舞いと、組合員と家族の安全確認、支援と復旧・復興に全力で立ち向かい、本日結集した皆さんに心から敬意と感謝。

▼被災された皆さんに心からお見舞いと、組合員と家族の安全確認、支援と復旧・復興に全力で立ち向かい、本日結集した皆さんに心から敬意と感謝。

寄稿

放射能汚染に脅かされる福島県の農民

鏡石町議・国労議員団

円谷寛氏



国労のみなさんの日頃のご健闘にいつも心から敬意を表しております。国鉄分割・民営化の前年、郡山客貨車区分

会、の職場闘争を圧殺しようとかけられた大弾の選挙に向け精一杯頑張ろうと決意してあります。

け、早25年が過ぎました。

翌年、分割・民営化の年に鏡石町議選に立候補し当選させて頂きました。本来ならば、6期目の任期を終了し、4月に7期目の選挙を終えていた時期なのですが、震災で選挙は9月4日に延期となり、県議選は来春まで延期されそうです。

国労仙台地方議員団も24年前は沢山居り、市議と町議がそれぞれ半数程度居りましたが、現在町議は自分一人となっていました。

3月11日は午前中に中学校の卒業式典があり、午後から新年度の予算審査特別委員会の開催中に、あのMT9・0、震度6強の地震が私どもの所にも襲いかかってきました。役場の中も大混乱、議場の天井も落下、棚の書類は床一杯に散乱。庁舎を出て町内に入ると下水のマンホールが所々でニョキニョキと飛び出し、屋根の瓦は道路まで散乱。道路も至る所で亀裂が入り、JRを立体交差する跨線橋は隙間が出来る通行不能に。【次ページへ続く】

- 5・15 各支部・分会代表者会議（春闘総括会議）
- 5・22 11春闘事務局総括会議
- 5・28 第34回地本アスベスト対策会議
- 5・30 地本婦人部激励送別会
- 5・30 第1回地本選挙管理委員会

間の激励と物資搬入に勇気づけられ、以降地本が先頭に踏み出した。本部を中心に対策本部が立ちあげられ、全国津々浦々の仲間から激励と救済物資、支援カンパを寄せられた。

情勢認識と意思統一

交運共済仙台事業所伊賀所長

▼震災の給付金支払状況。5月13日現在、仙台事業部で634件の被害集約（現職253件、退職者381件）。今後、千件を超える見込み。

国労東日本本部 松井書記長

松井書記長

▼東日本大震災に対する東日本本部の取り組み。

その任務は①緊急支援物資の調達と搬送②支援物資の調達依頼と発送③被災地

方本部への激励と見舞い。

▼諸問題への対応。①通勤時における障害の適用②罹災、避難している社員の勤務の取扱い③原発事故の半径20km、30km圏内の社員の勤務の取扱い④震災や原発で被災した社員と家族の住宅等の利用について。

▼11春闘。3・2ヶ月、6月30日支払を要求、5月6日に第一回交渉。（結果は2・6ヶ月、6月28日支払）

▼人事・賃金制度。会社は期日及び変更内容は別途提案としている。

地方本部提起 五十嵐書記長

五十嵐書記長

▼組織拡大。新採者への取り組みや課題集約。組対会議を開催し、大会までの意思統一を図る。

また本部のブロック別交流集約に参加していく。

▼差別是正。転勤希望調査の実施と集約、要請。昇進試験調査の実施。

▼東日本大震災による諸課題について。組合員被災状況集約。職場問題点（勤務・超勤100時間超過2人・郡山BT、他職場も同様実態あり。通勤・燃料不足で困難、交通費立て替え）。

▼改善要求の取りまとめは今後の大きな課題の一つになる。各職協と協議し進めていく。

度から実施され、問題点は多岐にわたる。労働条件は勿論、退職年度になっても就労場所が提示されない問題も発生。また一発提示による「辞退」を避けるため、「先に再雇用契約をさせる」ことを求めている。

▼組織強化・拡大。今年度は震災の影響で様々な状況を掴みえないのが実態。水戸支社牛久保で社会人採用者が新規加入。

▼他労組の動向と状況。今後の進め方。既締結3労組の再締結後、示されるであろう成案を受け取ってからの議論開始になる。

代表者会議発言等

全体討論各支部から状況報告

宮城県支部 山田書記長

▼支部の意思統一と経過。

2月27日の拡大支部委員会から。

▼労働協約問題では賛成の発言なし。人事・賃金制度も疑問と反対の声が大半。どちらもあり易い資料と説明が必要。

▼出向（エルダー）。新年度に入ったが、未だ就労先が未提示の組合員も。約束が守られていない。今後の闘いと交渉をどう進めていくのか。

▼安全問題。小牛田で車両火災。12年前に造った車両

で温度ヒューズは6年で交換だが、交換せず。安全軽視と利益優先の姿勢が見える。

▼春闘。支社前も含めたチラシ配布行動など、3月4日と5日では組織の半数以上が参加。要求を書いたジャンボハガキは貨物へは直送、東へは窓口経由で渡すとなったが結果は。

▼組織拡大行動。仙台駅分會では資料配布を取り組みしたが会社側のガードが固い。花見も中止せざるを得なかった。各職場でのオルグ強化を図る。

▼職場（山下駅）が津波の被害で現在亘理駅勤務。常

磐線では亘理から仙台間、当初4両運転、苦情から一部6両になるも少ない。代行バスは相馬・亘理間運転だが、積み残し問題。定員が決まっており、結局叱責を受けるのは現場。

▼水戸支社。相馬・原ノ町地区の方にアンケートがあり、仙台支社への異動にも触れていたと聞くがどうか。

▼津波時の避難・誘導の方法。会社にも明らかにさせる取り組みが必要。

▼制度（労働協約、人事・賃金）について五十嵐書記長を招いて学習会を実施。どの様な解釈をすれば良いのか、理解を深めてきた。

▼春闘。4日、5日の行動に加え、3日を支部の総決起集会とし97名の参加。集

会には自動車支部岩崎氏を招き、国労加入までの経過報告を受けた。

総行動での街頭チラシ。場所と時間の工夫が必要。集會での支部・分会代表の決意表明は国労らしく良かったの声。

▼震災により、支部独自の行動や、新規採用者に対する取り組みが流されてしまった。当面、昨年の採用者が現場配属になるので現場での交流強化を。

▼震災直後の勤務の扱い。電話が不通で勤務の確認ができない状況。またモニター通勤者は仙台に3泊した方

も。その後幹総での立ち入り禁止区域やライフラインがストップしている状況が明らかに。自宅待機の指示を受けた。津波による被害では家族死亡をはじめ

被害では家族死亡をはじめ家屋被害など多数。4月7日の余震でも大きな被害が。

福島県支部 小松山委員長

▼原発。県平和フォーラムの学習会から。高木学校の医学博士、崎山比早子氏の講演。

▼福島県の学校庭土壌汚染問題の基準で20 μ Sv（シーベルト）まで大丈夫とあるが、線量に安全のしきい値はない。1 μ Svを受けると人間のDNA30個の内1個は確実に破壊される。

▼安定ヨウ素配布。日本ではどこにあるか分からない状況。ヨーロッパでは原発建設時、地域住民に事前に配布。

▼20 μ Svの基準は安全か否かではなく、経済的な影響と原発作業復旧が進捗しないから基準を上げているだけだ。東電の責任である。

▼国際基準はあくまで1 μ Svであり、自然界から受ける4 μ Svに上乗せした1 μ Svであることを忘れてはならない。

▼原発活動家、石丸小四郎氏の講演。

▼原発建設時、周辺の寺を回り高潮調査を実施。一つの村が壊滅し、高台まで避難してきた記録があったが、原発推進の元大熊町長は「そうした記録はなかった」と国と東電に報告し、立地を受け入れたと新聞報道。

▼事故の背景には東電の徹底した合理化。検査周期の延伸と検査時間の短縮。ボロ雑巾を絞るような下請け作業員の過酷な労働条件から赤字がV字転換で黒字に守るべきことをしてこなかった東電の責任である。

▼春闘。5月7日に全分会・全班交流会で中間総括。現場長交渉は2月25日に実施した貨物福島分会のみ。

▼震災関係。乗務員関係職場では帰宅に対して会社の対応がバラバラ。また多賀城で被災した社員に高速バスで出勤を求める（後に取り消し）など会社は異常時の対応が出来ていない。

▼原発地域への勤務対応。復旧に行けないと言いつらく、勤務の変更も断れない。「災害」という全体主義の中で言えなくなっている。立ち上がるための議論と他職場を見直して共通認識を深めたい。

※全体討論では多くの発言がありました。紙面の都合で割愛します。ご了承ください。【編集部】

出荷停止の翌日に自殺

しかし、最も深刻な事態は、その後の原発事故でした。

世界史上最大の原発事故と言われたチェルノブイリと同じレベルという、極めて重大かつ深刻な事態となりました。

【前ページから続き】老朽なボロ屋の自宅に向かう途中、姉の家を見た所、何と家が45度に傾斜し、隣接する2階建ての住居兼作業所の2階部分は落下し、道路から田んぼまで数十メートルもの大きな亀裂と地盤沈下。自宅は壁が半分以上落ちてしまい、内部は目も当てられない惨状でした。

この放射能汚染は全ての人々に大きな被害をもたらしておりますが、中でも農民に与えたショックは計り知れないものがあります。三反歩のホウレン草を栽培してきた須賀川市の64歳の男性は自殺をしてしまいました。葉物野菜が次々と出荷停止となり、生乳も長期に亘り捨てざるを得ませんでした。

今、多くの農民は、「このまま農業を続けられるのだろうか」と悩み苦しんでいます。出荷停止にならなくとも、風評被害で野菜の値段が安く、とても採算が合わないと言っています。今では、「シイタケやタケノコさえ食べるな」と言われています。今回の震災では、私たちの町の殆どの水田を潤してきた、羽鳥ダムや

金と権力を使い、私たちの「危険」「反対」の声を全く無視して原発を作りつづけてきた、電力資本歴代自民党政府。それを批判せず広告収入で儲けてきたマスコミ、学者、文化人。更に「より原発を増設し、ベトナムにも輸出しよう」と企んでいた菅内閣責任は重大です。私たちは今こそ「脱原発」から「反原発」への目標を明確にして闘い続けなくてはなりません。

脱原発から反原発へ

長い間お疲れ様、そしてありがとう

佐藤さんと三上さんが退職

5月30日、地本婦人部は仙台市内において、三上敦子さんと佐藤歳子さんの退職激励会を開催しました。

会には加藤副婦人部長の司会で進められ、地方本部からは橋本委員長が労いのあいさつをいただきました。

お二人からは、「最初はどうしてみんな無理して組合運動をしているのだろうと思っていただけれど、いつの間にか自

分もどっぷり組合に浸かっていて、あっという間の年月でした。みんなと共に行きも来て良かったし、これから国労を盛り上げて頑張ってください」とお礼の言葉がありました。また真砂婦人部長からは、婦人部全員の思いがたつぷりと綴られた寄せ書きがそれぞれに手渡されるなど、会では終始和やかな雰囲気の中での会となりました。【久】



出会えてよかった、仲間よかった